

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和8年度学校評価計画

達成度(評価)
 A:十分達成できている
 B:おおむね達成できている
 C:やや不十分である
 D:不十分である

1 前年度 評価結果の概要	・学校の教育目標の実現に向けて、様々な学校行事や学習活動に取り組むことができた。生徒は各々自己使命感をもち、描いた夢に向かい地域や保護者に支えられながら前進していった。この前向きな心とそれを支える地域・保護者とのコミュニティーを次年度も大切にしていこう。 ・配慮を要する生徒の実態が多様化し、専門知識の取得や連携の強化の必要性がある。次年度は、特別支援に関する実効的な研修会を実施し、生徒の実態に応じたより細やかな支援にチームで取り組んでいく。 ・部活動の地域展開が始まり、職員の時外在時間はやや減少しているが、職員の手ごたえとして業務改革が進んでいる感触が少ない。次年度は、市の改革方針に基づき、さらなる業務改革の取り組みを実施していく。 ・「思考力・判断力・表現力の深まりを目指す授業の実践」について、対話学習を取り入れる工夫や家庭学習の徹底に取り組んだ。これにより、生徒たちの意識の変容は見られている。次年度も引き続き全職員で共通理解しながら取り組んでいく。
------------------	---

2 学校教育目標	自立の精神に満ちた豊かな人間力の育成
----------	--------------------

3 本年度の重点目標	(1) 豊かな人間性と社会性の育成 (2) 確かな学びの充実 (3) たくましく生きるための健康の推進 (4) 地域との共生と郷土愛の醸成
------------	---

4 重点取組内容・成果指標 中間評価 5 最終評価

(1)共通評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組内容	成果指標(数値目標)	具体的取組	進捗度(評価)	進捗状況と見通し	達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	○各教科において、ICTを活用したデジタル・アナログの「ベストミックス」の授業実践 ○学習内容の定着に向けた分かりやすい授業の実践	○「先生がICT機器やプリントなどを効果的に活用し、わかりやすい授業を行っている」と回答した生徒80%以上 ○「学ぶ意欲が高まった」と回答する生徒70%以上	・年に3回の研究授業を行い、全職員でデジタルとアナログを活用する効果的な場面を整理する。 ・教材については、個別最適な学習につながる課題の工夫をする。							・学力向上対策CD ・研究主任
	○復習に働きかけた自学ノートを活用し、「授業と家庭学習」の一体化に向けたサイクルの構築 ○思考力・判断力・表現力等の深まりを目指す授業の実践	○「毎日の自学ノートでその日の授業で学んだ内容の復習ができた」と回答した生徒70%以上 ○「主体的・対話的な学びで、自分の考えが深まったり、広がったりした」と肯定的に回答した生徒70%以上	・各担任の先生で日々の自学ノートの確認を行う。 ・生徒会と連携し見本となる自学ノートに取り組んでいるものを提示する。 ・「対話的な学び」を取り入れ、根拠をもとに解決へつなげさせる。							・学力向上対策CD ・研究主任
	○「川中タイム」を継続し、「深化する対話」を実現するプロジェクト型の学習 ○学校と家庭が連携した学習環境づくり	○「川中タイム」を通して、成果物をつくる過程で対話することに価値があると思う」と回答した生徒80%以上 ○平日の家庭学習が1時間以上になる生徒が75%を超える。	・週10分間の「川中タイム」を実施し、3ヶ月程度の期間で「成果物づくり」へとつながるプロジェクト型の学習を行う。 ・自分の学習計画・方法を実践し、振り返りをさせる。							・学力向上対策CD ・研究主任
●心の教育	●生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○「道徳の授業で自分の思いや考えを深めたり、自分とは違う思いや考え方に触れたりすることができた」と肯定的に回答する生徒80%以上	・各学年道徳の授業に年間35時間取り組む。 ・全学級「道徳」の授業を保護者等へ公開する。							・道徳教育推進教員
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○人権や差別についての理解が深まったと感じる生徒75%以上 ○いじめ防止等(いじめの定義、いじめの防止のための取組、事例対処等)について組織的対応ができていると回答した教員80%以上	・平和集会、人権週間の実施。 ・道徳や学活等で人権教育を行う。 ・気になる生徒の様子について、月1回の職員会議やその都度情報の共有を行い、早期発見・早期対応に努める。							・生徒指導主事 ・人権・同和教育
	●生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童生徒90%以上 ●「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童生徒75%以上	・授業や行事、教育相談などを通して生徒理解に努め、互いのよさを認め合う雰囲気を作る。 ・1年生は職業調べや職場見学、2年生は職場体験、3年生は全校のリーダーとしての行事や立派な式などを通して、将来の夢や目標について考えさせ、自分の将来への学びを深化させる。							・進路指導主事 ・各学年主任
●健康・体づくり	●健康を考えて行動できる能力の育成	●「健康に良い食事をしている」生徒90%以上	・実態調査をし、課題点を把握する。 ・給食時間に、食育タイムを月1回以上実施する。 ・生徒会と連携し、生徒を主体とした食について考える活動を実施する。							・食育・給食担当 ・体育主任
	●健康は何より大切だ」「保健で学習したことを、自分の生活に活かしている」と答えた生徒80%以上	・各学期に保健の授業を実施し、生活習慣や健康管理など実生活に活用する内容を取扱い、実践化を図っていく。 ・毎月保健だよりを発行し、日々の生活で役に立つ知識を提供する。								・養護
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在時間等の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在時間等の上限を遵守する。 ●年間20日の年次休暇のうち、職員1人当たりの年次休暇の取得日数14日以上	・定時退勤日、学校閉庁日、部活動休業日、年次休暇取得推進日を設定し、職員に自分のための時間を取るよう促す。 ・時間外在時間調査結果や職員の日頃の様子を適切に把握し、対応する。							・管理職
●特別支援教育の充実	○特別支援教育に関する教員の専門性と意識の向上	○「特別支援教育に関する専門性や意識が向上した」と回答した教員80%以上	・特別支援に関する研修会の実施。 ・ケース会議の開催、関係者間での情報共有 ・SSW,SC,医療機関等関係機関との連携促進							・特別支援教育担当

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組内容	成果指標(数値目標)	具体的取組	進捗度(評価)	進捗状況と見通し	達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言	
○教育の質の向上に向けたICT活用教育の実施	○AI等を活用した自立した学習態度の育成と業務の効率化	○全職員がICTを利用した授業またはテストを少なくとも一度は実施する。 ○オンラインでの課題提出、またはテストを経験した生徒が100%。	・AIやICTに関する職員向けの研修を実施し、授業の質を高める等の方法を共有する。 ・作成した教材等を職員間で共有できるシステムを構築する。							・情報教育推進リーダー
○地域と学校の協働による学校づくり	○地域と学校が相互に関わりを深めることのできる教育活動の推進(コミュニティスクール)	○授業や行事において、地域人材を活用する。 ○こまめに学校の情報を公開し、学校の「今」が見えるHPの更新に努める。	・地域の講師を招聘した取組を年に5回以上実施し、地域の伝統文化の継承を行う。 ・地域清掃やお年寄りの方々へのボランティア活動を計画・実施する。 ・学校・学級だより等を月に1回以上発行する。							・文化的行事担当・生徒会活動担当

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志と誇りを高める教育

5 総合評価・次年度への展望	
----------------	--